

「平成29年度実践的な手術手技向上研修事業に関する評価報告」

H29年度 CST実施実績(見込み)

講座	テーマ	参加人数	実施日
麻酔科・蘇生科	エコーガイド下神経ブロック	77	H29.8.19-20
脳神経外科	頭蓋底外科手術、経鼻的内視鏡手術	19	H29.12.2-3
耳鼻咽喉科	側頭骨外科 鼻内視鏡手術 頭頸部腫瘍手術	14	H29.12.9
インプラント再生補綴科	口腔インプラント外科手術	12	H29.12.10
口腔外科	頸部郭清術, 気管切開術, 大胸筋皮弁の作製	6	H30.2.17-18
消化器外科	腹腔鏡下観音開き法再建手術	7	H30.1.27
消化器外科	胸腔鏡下食道切除手術	7	H30.1.27
消化器外科	腹腔鏡下低位前方切除手術・側方郭清手術	7	H30.1.27

(岡山大学)

H29年度 CST実施実績(見込み)

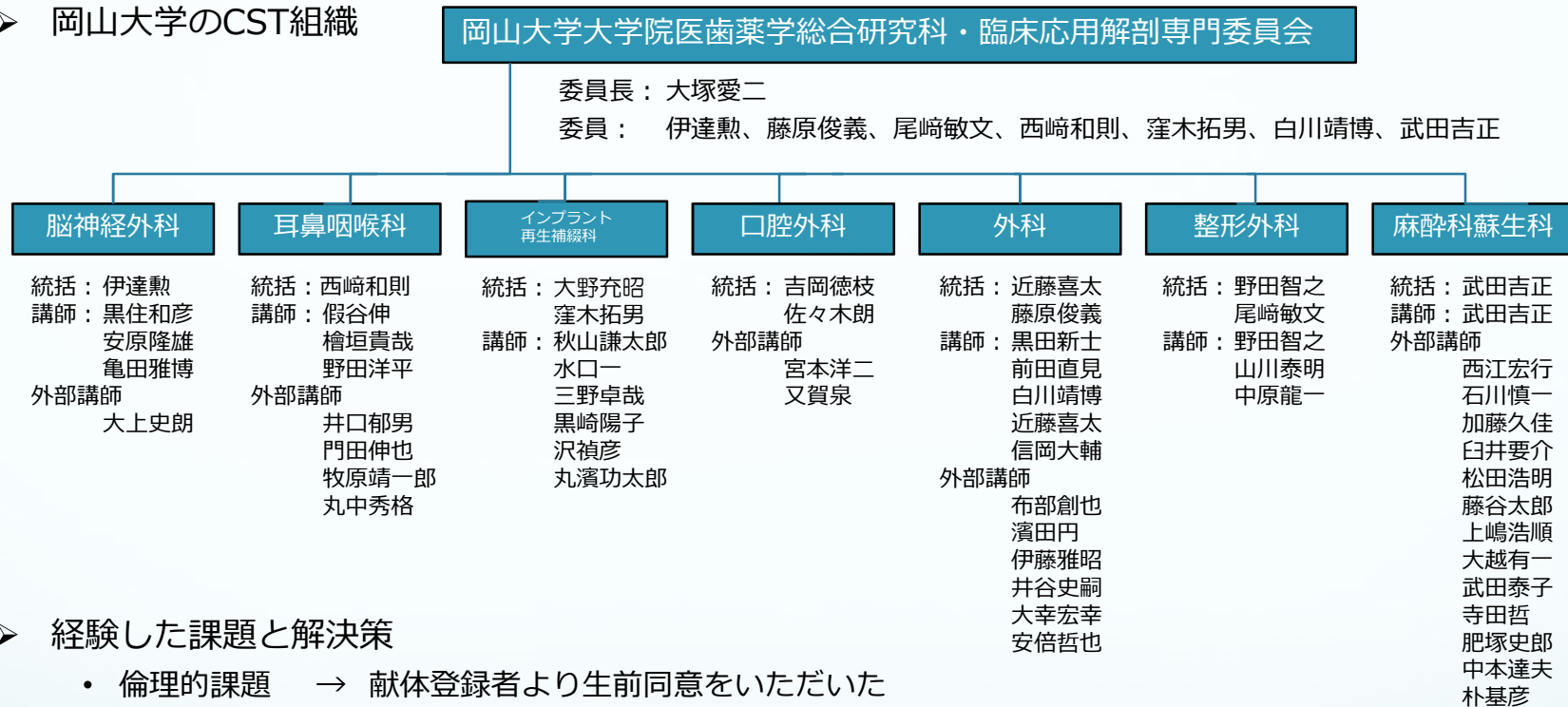
講座	テーマ	参加人数	実施日
消化器外科	Transanal total mesorectal excision (TaTME) 手術	17	H30. 2.11
麻酔科・蘇生科	エコー・CTガイド下神経ブロック	79	H30.3.9-11
消化器外科	開腹胃切除術	6	H30. 3. 4
消化器外科	食道手術	9	H30. 3. 4
消化器外科	肝胆膵手術	9	H30. 3. 4
消化器外科	腹壁癒痕ヘルニアに対する Components separation法	6	H30. 3.11

CST実施件数	14	使用ご遺体数	34
---------	----	--------	----

(岡山大学)

H29年度報告：岡山大学

➤ 岡山大学のCST組織



➤ 経験した課題と解決策

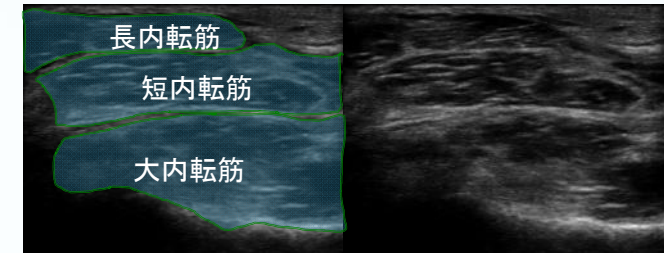
- 倫理的課題 → 献体登録者より生前同意をいただいた
学内倫理委員会の承認取得
- シール固定では脳組織や消化管が軟化する場合がある
 - 脳組織ではシール固定後に低濃度ホルマリンによる後固定を実施した
 - 消化管では低濃度ホルマリンで固定を実施した
- 血管が虚脱し動静脈の確認が困難
 - 動脈に赤色、静脈に青色のシリコンを注入で復元（右図）
- 実習前に手術計画が必要
 - 実習前にご遺体のCT撮影を行い、手術計画を立てた上でインプラント埋入手術を施行



H29年度報告：岡山大学

➤ 経験した課題と解決策（続き）

- 高価な手術機材の不足
 - 使い古し機器の譲り受け
- 固定によるエコー画像の劣化
 - 実習前日、生理食塩水の輸液（4-10リットル）で生体と同様の画像が描出可能（上図）
- 実習に使用させていただきご遺体の不足
 - 年度の初めに全診療科が集まり実習予定を立案。実習部位がオーバーラップすることなく効率的な実習が可能になった。
- 経費の不足 → 参加者から経費を徴収し実習を施行。大学事務が経理を行い透明化を確保した。
- 解剖学的知識に精通した講師の不足
 - パナソニックのMeAV Anetomie 3D®を用い、解剖をサポートした。



➤ 実習による効果

- 脳外科 → 実際の手術映像を確認後に解剖実習を進めることで、明日からの手術に役に立つ知識、技術を習得することができた。
- 耳鼻科 → 神経や脈管の立体的走行を習得できた。また、実際の手術手順の確認や、手術の各段階に必要な解剖学的構造を順をおって理解することができた。
- 補綴科 → 口腔インプラント外科手術のみならず、ソケットリフト、サイナスリストといった高度な治療法を経験できた。
- 口腔外科 → 頸部郭清術、気管切開術、大胸筋皮弁の執刀経験がある歯科医師は少数である。口腔癌治療の経験豊富な講師が手術手技を指導し、安全な手術手技に対する理解を深めることができた。
- 外科 → 熟練外科医：新しい術式（taTME）をマスターすることが可能であった。
若手外科医：実習で執刀を完遂し、解剖知識および技術の習得が可能であった。
若手看護師：開腹手術の機械出しを習得できた。

H29年度報告：岡山大学

➤ 実習による効果（続き）

- 整形外科 → 実臨床では見えない場所にある血管や神経の位置を確認できた
- 麻酔科 → 神経の立体的走行を理解し、神経ブロックの安全性と確実性が向上した。

➤ 実習を継続する上での課題

- 脳外科 → 臨床と同等のセットアップ（顕微鏡・内視鏡・ナビゲーションシステム・ドリルシステム）を使用するには資金確保が必要。
- 耳鼻科 → 実習時間の確保
- 補綴科 → 臨床に即した実習の開催。ご遺体のCT画像とコンピューターを用いたシュミレーション実習の実施
- 口腔外科 → 実習課題の拡充。実習時間の延長
- 外科 → 消化管の固定状態の安定化
- 整形外科 → 運用コストの削減。特に人材育成コストと備品取得コスト。
関節超音波など新しい学習ニーズに対応し、魅力的な実習を開催する。
- 麻酔科 → 実習開催を広く周知するポータルサイトの開発。
高額な診療機器の確保

